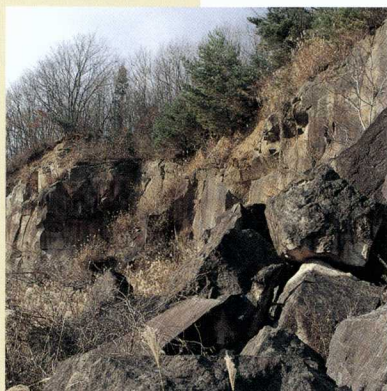


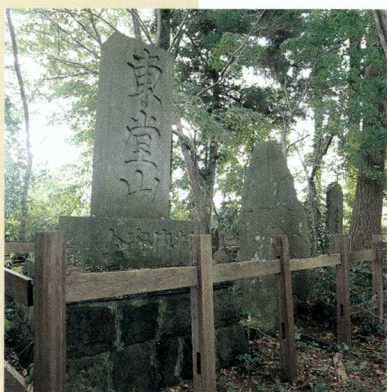
共に生き、共につくる
牧場の朝のまち
鏡石

心にしみる 古の物語



陣ヶ岡遺跡

出土した石器は地名にあやかり「成田型ナイフ形石器」と命名。



宝泉院大日如来自然石板碑

大日の碑と知らずに橋に用いたところ、その上で皆落馬したという逸話が残る。



正和の碑

正和2(1313)年建立。刻まれた梵字は「アーンク」と読み、大日如来を表す。



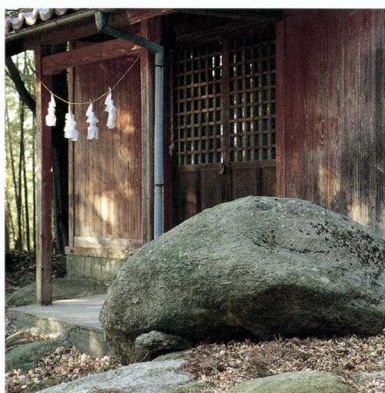
仁井田双式来迎三尊画像磨崖板碑

嘉暦4(1329)年作。岸壁に浮彫された全国唯一の双式の阿弥陀来迎像。



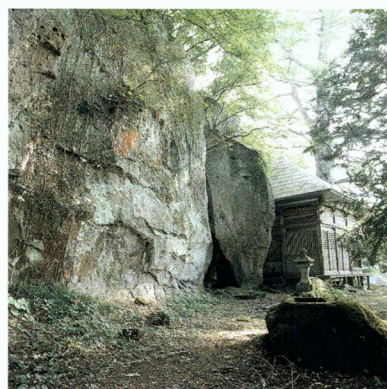
笠地藏

古くから笠地藏として親しまれ、今も4月23日、8月23日の縁日には大勢の人々で賑わいます。全国でも珍しい笠つき碑は、昭和53年に町の文化財に指定されました。



牛乳山乳石道祖神

この巨石に折れば、お乳がたくさんでようになると言われる。



小栗山観音堂

仙道三十番目の札所。堂内には十一面観世音の木製座像が安置されています。



鹿島神社

高久田館主筋部紀伊守の「カブト」の立物が御神体として奉られています。

鏡沼は鎌倉時代の悲話伝説に由来します。別名「かげ沼」とも呼ばれ、現在は田園風景の中に、その面影の沼跡が残っています。
古い文献によれば、この沼には蜃気楼が起きると言われ、かの俳聖・芭蕉も立ち寄っています。しかし「かげ沼という所にいくに、今日は空曇りて物影うつらず」と、期待した「物影」が見られなかった心残りを「奥の細道」にとどめています。

の面影を色濃く漂わせる旧跡が点在しています。
陣ヶ岡遺跡もそのひとつで、約2万3千年前の石器や縄文土器が多数出土し、県を代表する遺跡に数えられています。
また、県重要文化財である杉戸絵を収める西光寺、ユニークな云い伝えが残る乳石神社、弘法大師の教えを刻んだとされる正和の碑(白山神社)など、随所にある遺跡の数々から町の歴史を遡ることができます。